

花でとりもつ地域の『輪（和）』

学生が、花を通じて、地域と人との交流を図ることとし、3つの活動について、報告いたします。

一、高齢者といけばなを楽しむ (9月22日実施)

花を通じて、高齢者と円滑なコミュニケーションを図ることを目的とし、大学近隣の高齢者施設にて、いけばなを楽しむ会を開催しました。

高齢者の方と同じ目線で、作品を見たり、枝などの硬い花材は学生が率先して切るなど、高齢者と一緒に作品制作に取り組みました。

今回は、器に着物に見えるようなラッピングを施し、「昔は、着物を着る時にはね、色の取り合わせとか、結構考えたりしたのよ。」と高齢者の方からも、積極的に学生に話しかけていただき、楽しいひと時を過ごすことができました。



二、花と迎える年末年始 (12月26日～1月4日実施)

アトレヴィ三鷹での年末年始の華道の展示は、4年目を迎えました。

10月初旬、アトレヴィ三鷹の担当者様へプレゼンテーションをし、

「自分たちがどんな作品を生きたいのか」を伝える難しさに、苦悩している姿がありました。また、先方から作品への要望があった時も、妥協せずお互いの意見を取り入れた作品制作に向け、知恵と工夫を駆使し、お正月らしい作品になるように準備しました。

展示期間初日は、駅を利用されている方にも作品制作の過程を見ていただく『公開生けこみ』を行いました。「頑張ってるね」と声をかけていただくこともありました。

10日間の展示期間中は、部員同士で協力し合い、手入れを行い、作業中には「展示を見るために、三鷹駅で降りました。」と声をかけて下さった方もいらっしゃいました。

普段の部活動ではできない、大きな作品と「見ていただいた『声』が直接聞くことができる」という、貴重な経験となりました。



八王子キャンパスで、竹の準備



公開生けこみの様子



12月31日には、新年に向けてすべての花を入れ替え



駅改札フロアの展示

三、子どもたちといけばなを楽しむ

花に直接触れることで、「命の大切さ」を感じることを目的とし、ツインズマーケット(2020年3月7日)内のイベントの一環として、子どもいけばな体験会を実施予定です。